

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
東京都千代田区西神田
千代田区西神田1-7-2
電話 (262) 2426・2932
電報 6-36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導と集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行われる学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力し、ついで教育効果の向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。

(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書から)

修学旅行等の補助金増額へ

63年度文部省の概算要求額きままる

文部省は八月三十一日、昭和六十三年度予算の概算要求額をまとめた。総額は四兆五千八百九十九億七千八百九十九円である。本年度比〇・一八%増であるが、修学旅行等の各関係補助費は大幅増となっており、修学旅行の教育重視の表れと受けとめられる。

(石川敏夫会長・水戸市立第一中学校校長は、八月五日、要保護・進歩保護児童ならびに、き地校の児童生徒に対する「昭和六十三年修学旅行費等補助金の増額について」の陳情を塩川文部大臣あてに行っている。(本紙記者所載)

財団法人全国修学旅行研究協会(山本種一理事長と、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

修学旅行で131万名が京都に宿泊 61年

京都市文化観光局では、昭和六十一年中に京都で宿泊した修学旅行団の実績をまとめた。これによると、小・中・高合計で五千六百八十四校、百三十一万四千名となり、前年より七万四千名減少したものの、修学旅行のメッカとして、トップの座を保っている。人員を出発地別にみると、関東が46%を占め、北海道、東北、中部を加えると、83%が東から入浴しており、東高西低の傾向はますます顕著となった。

トッパ、以下中部22%、九州6%、中国3%、四国2%となる。高等学校では、関東33%、東北24%、北海道17%、中部13%、九州11%の順となり、在籍数からみると、北海道、東北の高校生は、ほとんどが京都を訪れている。また、小・中・高の割合は、12%・49%・39%で、修学旅行生の半分は中学生といことになる。

小学校では、中部41%、近畿34%、中国15%、四国9%と京都に近い地方が多く、中学校では、関東が67%で断然

の21%が集中し、以下十月19%、十一月14%、六月13%、四月12%と春秋のシーズンに多く、春は中学校、秋は高等学校が目立つ。シーズンオフは夏七・八月、冬十二・三月であるが、最低の一月でも三千名の修学旅行生が京都に宿泊しており、まさに全国から、

区分	小学校		中学校		高等学校		合計	
	校数	人員	校数	人員	校数	人員	校数	人員
1月	—	—	3	1	9	2	12	3
2月	1	0	14	3	15	4	30	7
3月	17	2	82	17	125	30	224	49
4月	228	25	549	130	30	6	807	161
5月	542	59	757	207	48	9	1,347	275
6月	103	11	516	155	31	7	650	173
7月	—	—	181	55	54	11	235	66
8月	—	—	1	0	50	14	51	14
9月	100	11	159	30	217	61	476	102
10月	254	33	152	32	620	181	1,026	246
11月	102	16	59	11	535	159	696	186
12月	17	2	8	3	105	27	130	32
合計	1,364	159	2,481	644	1,839	511	5,684	1,314

(京都市文化観光局調べ)

特に後者については大幅な伸びを示している。
文部省財務課勝山浩司就学奨励係長によれば、厳しい財政事情の下ではあるが、修学旅行費等についてはその必要性から、概算要求の単価を、修学旅行費(小学校一萬三千二百円、二万二千円、中学校三萬八千三百円、三萬八千円)校外活動費・宿泊費を伴わないもの(小学校七千九百円、七千円)、中学校千二百二十円(千二百円)、校外活動費・宿泊費を伴うもの(小学校千九百九十円、千八百円)、中学校千三百七十円(千七百六十円)としており、その二分の一が

国庫補助対象で、残りの二分の一は地方負担となる。(かっこ内は六十二年予算の単価)
なお、この要求予算は、大

蔵省の査定を経て国会へ提出され、その議決によって、来春正式に決定されるものである(単価)
この要求予算は、大

北が一万四千名で、相変わらず関西に希望が集中している。関西方面では、例年どおり東京発八時台のAコースの希望が多く、一部の学校を東京

発十時台のBコースに振り替えることにしたが、人員が減少するので、Bコースは六月一杯で終了する見込みとなる。各県で学校・新幹線間のつなぎ輸送等を検討し、次回十一月五日の研究協議会までに集計することを申し合わせた。

会議の席上、JR東海東京営業支店の安部浩嗣販売促進課長から、六十二年春に新駅開業・瀬戸大橋開通に伴うダイヤ改正を行い、復路の時間帯が繰り上がる見込みであること、(こ)たまの座席数が減少することの説明があり、また、関東・東海・近畿三地区修学旅行連合会、十一月二十日名古屋での研究会、文部省陳情、現地研修会、修学旅行実施報告書、六十二年の「シルクロード博等に関する報告書」の発行、しおり「近畿の旅」改訂については、各県から委員を抽出して検討することとした。

在り方) 文部省教科調査官 高橋哲夫氏 (予定)

財団法人全国修学旅行研究協会は、設立以来一貫して修学旅行の教育的水準の向上をめざす諸活動を推進してきた。特に昭和五十九年からは、全国的規模の修学旅行研究会を開催し、修学旅行を通じた次世代を担う青少年の人づくりにつとめておられます。

今年東海三県中学校修学旅行委員会と共催して「新しい修学旅行の実践をめざして」をテーマに、名古屋市内において「第四回全国修学旅行研究会」を開催いたします。

現在、教育の諸改革が進められている中、修学旅行もこれにかなう対応を求められています。この研究会を中心として、今後の修学旅行のあり方を究明するもので、全国から多数の先生方の参加を期待しています。

一、日時 昭和六十二年十一月二十日(金) 十三時~十六時三十分
二、会場 名古屋市教育局 名古屋市中区錦三丁目一六六
地下鉄「名古屋駅」から東山線、金山駅から名城線、いずれも「栄」

三、研究テーマ
「新しい修学旅行の実践をめざして」
四、研究会
(1) 研究発表
・思い出に残る修学旅行の実践を求めて
—名古屋市長会

市立緑陽中学校教諭 伊藤一美氏
生徒がつくる修学旅行——班別行動を主とした「愛知県半田市立亀崎中学校」教諭 土屋 豊氏
協賛
関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

主催 財団法人全国修学旅行研究協会
東海三県中学校修学旅行委員会
後援 文部省 都道府県教育長協議会
愛知県教育委員会 三重県教育委員会 岐阜県教育委員会 名古屋市教育局 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

主 幹 前田 寛
幹 事 前田 寛
幹 事 前田 寛
幹 事 前田 寛
幹 事 前田 寛

11月20日名古屋で第4回全国修学旅行研究大会を開催

財団法人全国修学旅行研究協会は、設立以来一貫して修学旅行の教育的水準の向上をめざす諸活動を推進してきた。特に昭和五十九年からは、全国的規模の修学旅行研究会を開催し、修学旅行を通じた次世代を担う青少年の人づくりにつとめておられます。

今年東海三県中学校修学旅行委員会と共催して「新しい修学旅行の実践をめざして」をテーマに、名古屋市内において「第四回全国修学旅行研究会」を開催いたします。

現在、教育の諸改革が進められている中、修学旅行もこれにかなう対応を求められています。この研究会を中心として、今後の修学旅行のあり方を究明するもので、全国から多数の先生方の参加を期待しています。

一、日時 昭和六十二年十一月二十日(金) 十三時~十六時三十分
二、会場 名古屋市教育局 名古屋市中区錦三丁目一六六
地下鉄「名古屋駅」から東山線、金山駅から名城線、いずれも「栄」

三、研究テーマ
「新しい修学旅行の実践をめざして」
四、研究会
(1) 研究発表
・思い出に残る修学旅行の実践を求めて
—名古屋市長会

風紋

長い夏休み明けの中学校は生徒指導で忙しい。生徒はいま楽しくないといわれる。学校環境の中核は教師である。口をそろえて訴える不公平さ、生徒の言い分を聞いてくれないかたくなさなどといった人間不信感。学校は成績の検定場と化し、増加するいじめ等で登校拒否の疎外感。学校の授業は二番煎じ、開放感はずいとする社交場の塾通い等の重圧感がいま生徒にのしかかっている。沈黙と暗闘の集団自由と規律のもとに自主的な明るい、楽しい学校づくりはとうとうはよいのだろうか。体をはって学ばせる生活。体育大会等の学校行事では自分たちの行事だという自覚をもたせ、班別単位から学校、学年、全校へと広げ、一人一人役と助け合いの仕組みを中心においた組織が必要である。体育大会に強歩の種目を組み入れたことがある。正常歩(健康な歩き方)をゲーム化したもの、椅子の座り方指導から始まり、堂々とした歩き方の訓練、全職員の協力が必要となる。生徒は案外に関心を示し好評。基礎学力をしっかりと身につけること。入学式の子どもの意欲、期待は日を経につれうすれるのはなぜだろうか。学力とは科学学習をとおして身につけた力だとするならば、自由研究の中から考える力、応用力が育つ。価値観の多様化のなかで、成績の輪切りをせず、適性に能力を引き出し、自己を見つめて考える機会を与えることが必要である。そうすればおのずと楽しい学校が生まれ

長い夏休み明けの中学校は生徒指導で忙しい。生徒はいま楽しくないといわれる。学校環境の中核は教師である。口をそろえて訴える不公平さ、生徒の言い分を聞いてくれないかたくなさなどといった人間不信感。学校は成績の検定場と化し、増加するいじめ等で登校拒否の疎外感。学校の授業は二番煎じ、開放感はずいとする社交場の塾通い等の重圧感がいま生徒にのしかかっている。沈黙と暗闘の集団自由と規律のもとに自主的な明るい、楽しい学校づくりはとうとうはよいのだろうか。体をはって学ばせる生活。体育大会等の学校行事では自分たちの行事だという自覚をもたせ、班別単位から学校、学年、全校へと広げ、一人一人役と助け合いの仕組みを中心においた組織が必要である。体育大会に強歩の種目を組み入れたことがある。正常歩(健康な歩き方)をゲーム化したもの、椅子の座り方指導から始まり、堂々とした歩き方の訓練、全職員の協力が必要となる。生徒は案外に関心を示し好評。基礎学力をしっかりと身につけること。入学式の子どもの意欲、期待は日を経につれうすれるのはなぜだろうか。学力とは科学学習をとおして身につけた力だとするならば、自由研究の中から考える力、応用力が育つ。価値観の多様化のなかで、成績の輪切りをせず、適性に能力を引き出し、自己を見つめて考える機会を与えることが必要である。そうすればおのずと楽しい学校が生まれ

長い夏休み明けの中学校は生徒指導で忙しい。生徒はいま楽しくないといわれる。学校環境の中核は教師である。口をそろえて訴える不公平さ、生徒の言い分を聞いてくれないかたくなさなどといった人間不信感。学校は成績の検定場と化し、増加するいじめ等で登校拒否の疎外感。学校の授業は二番煎じ、開放感はずいとする社交場の塾通い等の重圧感がいま生徒にのしかかっている。沈黙と暗闘の集団自由と規律のもとに自主的な明るい、楽しい学校づくりはとうとうはよいのだろうか。体をはって学ばせる生活。体育大会等の学校行事では自分たちの行事だという自覚をもたせ、班別単位から学校、学年、全校へと広げ、一人一人役と助け合いの仕組みを中心においた組織が必要である。体育大会に強歩の種目を組み入れたことがある。正常歩(健康な歩き方)をゲーム化したもの、椅子の座り方指導から始まり、堂々とした歩き方の訓練、全職員の協力が必要となる。生徒は案外に関心を示し好評。基礎学力をしっかりと身につけること。入学式の子どもの意欲、期待は日を経につれうすれるのはなぜだろうか。学力とは科学学習をとおして身につけた力だとするならば、自由研究の中から考える力、応用力が育つ。価値観の多様化のなかで、成績の輪切りをせず、適性に能力を引き出し、自己を見つめて考える機会を与えることが必要である。そうすればおのずと楽しい学校が生まれ

長い夏休み明けの中学校は生徒指導で忙しい。生徒はいま楽しくないといわれる。学校環境の中核は教師である。口をそろえて訴える不公平さ、生徒の言い分を聞いてくれないかたくなさなどといった人間不信感。学校は成績の検定場と化し、増加するいじめ等で登校拒否の疎外感。学校の授業は二番煎じ、開放感はずいとする社交場の塾通い等の重圧感がいま生徒にのしかかっている。沈黙と暗闘の集団自由と規律のもとに自主的な明るい、楽しい学校づくりはとうとうはよいのだろうか。体をはって学ばせる生活。体育大会等の学校行事では自分たちの行事だという自覚をもたせ、班別単位から学校、学年、全校へと広げ、一人一人役と助け合いの仕組みを中心においた組織が必要である。体育大会に強歩の種目を組み入れたことがある。正常歩(健康な歩き方)をゲーム化したもの、椅子の座り方指導から始まり、堂々とした歩き方の訓練、全職員の協力が必要となる。生徒は案外に関心を示し好評。基礎学力をしっかりと身につけること。入学式の子どもの意欲、期待は日を経につれうすれるのはなぜだろうか。学力とは科学学習をとおして身につけた力だとするならば、自由研究の中から考える力、応用力が育つ。価値観の多様化のなかで、成績の輪切りをせず、適性に能力を引き出し、自己を見つめて考える機会を与えることが必要である。そうすればおのずと楽しい学校が生まれ

長い夏休み明けの中学校は生徒指導で忙しい。生徒はいま楽しくないといわれる。学校環境の中核は教師である。口をそろえて訴える不公平さ、生徒の言い分を聞いてくれないかたくなさなどといった人間不信感。学校は成績の検定場と化し、増加するいじめ等で登校拒否の疎外感。学校の授業は二番煎じ、開放感はずいとする社交場の塾通い等の重圧感がいま生徒にのしかかっている。沈黙と暗闘の集団自由と規律のもとに自主的な明るい、楽しい学校づくりはとうとうはよいのだろうか。体をはって学ばせる生活。体育大会等の学校行事では自分たちの行事だという自覚をもたせ、班別単位から学校、学年、全校へと広げ、一人一人役と助け合いの仕組みを中心においた組織が必要である。体育大会に強歩の種目を組み入れたことがある。正常歩(健康な歩き方)をゲーム化したもの、椅子の座り方指導から始まり、堂々とした歩き方の訓練、全職員の協力が必要となる。生徒は案外に関心を示し好評。基礎学力をしっかりと身につけること。入学式の子どもの意欲、期待は日を経につれうすれるのはなぜだろうか。学力とは科学学習をとおして身につけた力だとするならば、自由研究の中から考える力、応用力が育つ。価値観の多様化のなかで、成績の輪切りをせず、適性に能力を引き出し、自己を見つめて考える機会を与えることが必要である。そうすればおのずと楽しい学校が生まれ

信頼される旅づくり

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。

先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえのないふれあいが、よき思い出として
ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111 支店 国内242ヵ所(登録) 海外14ヵ所
C 運輸大臣登録一般旅行業第20号

生徒指導と特別活動・修学旅行

45

はじめに
前号では、「国際理解教育の具体的展開としての修学旅行の実施内容」として、次の分類を試みた。

(1)国際交流の歴史についての理解
(2)古都の寺院等の訪問
(3)史跡などの見学
(4)展覧会や博覧会での学習
(5)他国の現在についての理解

修学旅行改善のための理論と実践例

国際社会に生きる資質を養う修学旅行 (5)

今号からは、旅行の行事や修学旅行を通しての国際理解教育の在り方や進め方について、いままでの理解や、前号の分類に基づいて具体的な実践例を紹介し、また、実践内容を整理しながら、体系化を図っていくことにしたい。

昭和六十一年度の修学旅行実施に際する国際理解教育の内容は、次のとおりである。
1. 班別・コース別・テーマ別による自由(研究)行動
2. 本校独自の旅行スタイル
3. 旅行日程の一日を生徒の班別行動にあてている。

冒頭に示してある「分類」によりながら、学習活動の特徴をあげてみたい。
(1)体験的な学習活動
「比較文化・英会話コース」には、学年の各組から八班が参加しているが、そのうち、体験的な学習活動を行ったのは六班であり、次のような研究テーマに基づいている。

文部省教科調査官 高橋哲夫

永井 熙君を悼む

財団法人 全国修学旅行研究協会

理事長 山本種一

永井君の突然の訃報に接して、私は大きな衝撃を受けた。平素から健康に一人倍留意する方だったし、しかもつい最近元気な姿を見たばかりなのに、まさかこんなに早く幽明境を異にするとは思ってもよらなかった。まことに痛恨の極みである。

で、日本再建の道は教育にあるという信念を持って活動していた私の教育委員時代であった。同じく教育の復興を志願した二人は、肝胆相照らす仲となった。それ以来四十年近くも親しい交わりが続いている。彼は「物事の正誤を射る明敏な識見の持主だったが、同時に人に接するに礼を忘れず、その上腹かき豊かな心で溢れており、かつ明らかなるものがあった。人間的にも暖かい友情と義理人情には特別に厚い人であつて、私にはまたと得がたい生涯の友であつた。全国教育界からの信頼は厚く、衆望を担っていた事は決して偶然ではない。

全修協は昭和三十年六月三重県賢島で創立総会を開き、活動の第一歩を踏み出した。戦後の混乱の続く中、



永井 熙氏(ながい ひろし)
(財)全国修学旅行研究協会 常務理事・茨城県支部長
八月二十四日、脳出血のため東京都新宿区の慶義塾大学病院で死去、七十八歳。密葬は二十七日茨城県大洗町の自宅で行われた。喪主は長男宣弘(のぶひろ)氏。自宅は茨城県東茨城郡大洗町磯浜五二七六。

安全性の確立と修学旅行の常務理事に選出され、寺田君が副理事長・事務局長に選任された。寺田君が間もなく日教弘の会務に専念する事になったので、二代目局長として大任をなすことになった。永井君が全修協の本部局長として就任した。当時の心境について、後年彼は賢島での創立総会で常務理事に選出されて以来重要会議などには出席していたが、本部事務局の責任者となつて、一週一、三日水戸からの通勤で協会事業の遂行ができるかと思つたとき、幾度となく辞退を考えた。しかし、戦後余りにも無残な修学旅行の事故の続出、その

さわやかな奥日光の高原で素晴らしい修学旅行の一夜をお過ごし下さい。

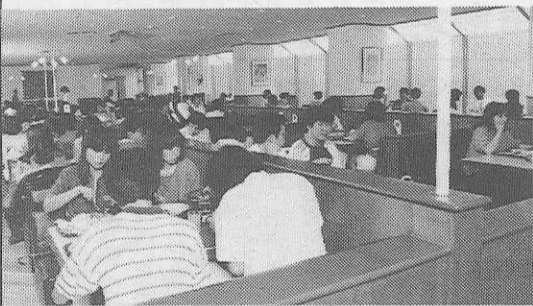


そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校

奥日光高原ホテル

〒321-16
日光市湯元2549-6
(TEL) 0288-62-2121代表

修学旅行の楽しいお食事
箱根彫刻の森美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

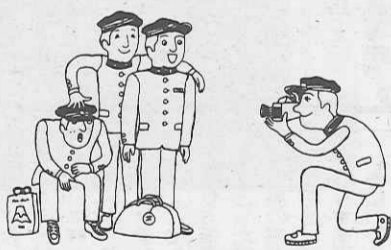
〒250-04
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)1141(代表)

楽しい修学旅行を、

より安心

出来るものに

「国内旅行傷害保険」
修学旅行用をおすすめします。



東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-212-6211(代表)

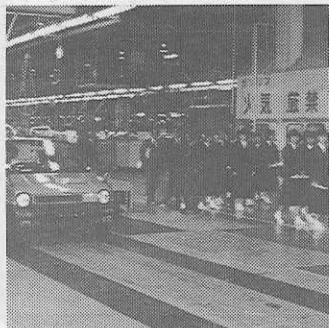
豊かな自然と、科学の調和

本田技研鈴鹿製作所工場見学

地曳綱

エンジン教室

潮干狩



体験学習のご案内

- 地曳綱 ●潮干狩 ●伊勢形紙彫り
●茶摘み ●テーブルマナー
●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●エンジン教室

お問い合わせ・お申し込みは
鈴鹿サーキット

〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111